令和４年度　第１回　校長「語らいサロン」

『主体性』について

～自立　自ら学び、考え、行動する人～

日時：令和４年６月４日（土）９：１５～１０：０５
場所：集会室＋ Zoom ミーティングルーム（参加者なし）
参加者数　６名

川中子　おはようございます。時間ですのではじめさせていただきます。はじめに、参加申し込みのアンケート。送ったものにつけておいたのですが、設定を間違えたらしく、その日のうちにアンケートの回答期限が来てしまったようで。その後に申し込もうと思ったら回答できなかったそうで、申し訳ありませんでした。

それでは、今日の会を進めていきたいと思いますが、皆さん今までにも参加していただいたことがある方ばかりですので、自己紹介も大丈夫ですね。ありがとうございます。今日はこちら（Zoom）にも入られる方がいると思うんですが、まだ誰も入っていないようですので、はじめさせていただきます。

それでは、今日は今年度第１回目ということで『主体性』についてお話ししたいと思います。「主体性」は、今年度のテーマにしようと思っているところなんですが、本校の教育目標で『自立』『共生』『健康』というのがあって、これらはどれも大事なものなんだけれども、毎年卒業式に、最終的に一番大切にしてもらいたいのは「思いやりをもち、共に生きる人」だというメッセージをこれまで発信してきたんですね。それで、もちろん、その気持ちは今でも変わっていないんですけど、何か、このコロナ禍などを経験して、本当に「思いやり」だけで何とかならないというか、また、その「思いやり」をもつのも、難しいことだなと。本当に、考え方の違う人と共に生きていくのは難しいなと。その時に、どうしても「自ら学び、考え、行動する」ことが、どうしても欠かせないことなんじゃないかなと強く感じているところです。

それと合わせて、学校では今、「主体的・対話的で深い学び」という考え方が、文部科学省から、日本の子供たちの学びに欠かせないよと言われています。「主体的」「対話的」「深い学び」というとても深い内容なんですが、その中にも「主体性」が語られています。

学校では、「自立」という教育目標に向けて、子供たちに主体性の発揮させる事を考えているんですね。こういう感じで（ポスターを見せて）「自分で、自分から」というこういう態度が大事ですよと話しています。で、子供たちにどうやって主体性というものを育んでいけるかなということを悩んでいるんですが、そのためにまず、自分が主体的に生きていかなければいけないんじゃないかなと。学校で言えば、先生がまず主体的に生きていないとダメじゃないかなと思います。保護者の方からも、いろんなところでいろんなご意見をいただくんですけど、「先生たちは、本当に『自立』ができているんですか？」なんて言われることもあります。「先生はどうなんですか？」と。そんな声を聞いたときに、私たちは胸をはって「ちゃんとやってます」と言えるかどうか？　私は、常に、主体的であろう！と心がけてやっているつもりではおりますが、主体性を発揮するというのは、なかなか簡単なことではなくてですね。摩擦が生じたりすることもありますし、いろんな人と対話をしていかなければいけないなと思います。

「主体性・主体的である」について思うこと

今日は皆さんお出でいただいていますが。皆さんもお仕事をされていると思いますが、この「主体性」とか「主体的である」ということで、何か感じるところがあればお話しいただければと思います。では、Ａさんの方からでいいですか?

Ａさん　…主体性？　…Ｄさんの方からお願いします。考えておきます！

川中子　そうですか（笑）！　ではＤさんからお願いします。

Ｄさん　そうですね。仕事で思ったことは、やはり、世界で活躍している人たちは自分が率先して自分の意見を述べる方だっていうのは感じています。例えば、日本人に多い（？）、人の意見を聞いて、自分からあまり発言しない人が多いんですが、私はアジアのいろんな国の方とお仕事をする機会があるんですが、やはり皆さん、意見を聞いて、自分自身の意見も話す。そして、意見が食い違っても、相手の意見を尊重する気持ちがあるなと感じています。

川中子　ありがとうございます。Ｃさん、いかがでしょう。

Ｃさん　まあ、仕事でだと、主体性を勘違いする、というか。自ら行動するんですけど、例えば、これは相談しなければいけないということなのに、それをせずに、仕事上で自分で勝手に判断してしまって。全く違うことをやってしまって、問題が起きるということがあるので、組織を見ていく中で、自分から動いていいけど、勝手に動いてはいけないというのが難しいところかなと思ってます。だから、これは相談しよう、これは自分でやろう。相談しよう、も決断の一つなのに、自分で決断するのを勝手にやってしまう。それで、あまりにも報告、相談しろというと、自主性がなくなっていく。そこのバランスを取るのが難しいなと思います。

川中子　Ｃさんも、部下が会社にはいると思うんですが、下で働く人たちが主体的で働いてくれているか、それとも指示を待つばかりになってしまっているかというのは、仕事が生産性と言うことを考えたときに、非常に大きな差がでてしまうんじゃないかなと思うんですね。ただ、今おっしゃったように、勝手にやることが主体性ではないというのが、難しいところですよね。

Ｃさん　若いころ、（私は）そうだったんです。勝手にやっていたんです！　上司なんかうるさい！って。（笑）

川中子　はい。ありがとうございます。ではＢさんいかがですか。

Ｂさん　はい。ちょっとＣさんに似ているんですけど。やはり、実行力のある人、主体性がある人がぐいぐい引っ張ってくれるのはいいんですけど、周りもやはりディスカッションして、こうだと言えないと、一人突っ走ってしまうのかなと。勝手にやっちゃうと。自分だけが、ではなく、みんなが思っていて、それをディスカッションして、報・連・相じゃないですけど、うまくやっていけるのが理想なんだと思うんですけど。一人だけ突出していくのが目立ち、難しいなと思います。

川中子　はい。では、Ａさんいかがですか。

Ａさん　私も職業柄、子供を相手にする職業なので、言葉がけ一つで子供がどう動くかっていうのがかかっていて、今日はこの言葉がけで子供がちゃんとできたけど、次の日はこの言葉がけじゃダメだというのが結構あって。後輩にあたる先生が、正解をすぐ知りたがるというか、「なんで子供がすぐ動けたんですか？」と。考えて、子供のことを知って、私は言葉がけを毎日しているんですけど、「なんで先生の言葉がけだと動くのに、わたしのじゃ動かないんですかね？」とか、答えをすぐに求めようとする傾向があって。そうじゃなくて、子供のことを毎日よく見て、知って、それから言葉がけするでいいんだよと言ってるんですが。何だか、見て学ぶっていうのが、あまりできないというか、難しくなっているのかな、と。

川中子　そうですね。Ｅさん、今、主体性とか主体的にあるっていうことで思うことはありませんかとお話を伺っているんですが。

Ｅさん　そうですね。さっき、Ｃさんが言っていたのに近いですかね。仕事の話になると。いろんなことができるようになる人というのは、自分から動いて、何でもこなしていこうとする人かな。いつまでたってもできない人というのは、様子を見て、縄跳びに入らずに待っている。それって、どっちがいいんだろうって、わかんないんですけど。ある意味、子供たちで考えれば、「やらせる」を主体的と捉えてしまう親が多いのかな。やれやれと言って、で自分からやるようになったら黙ってみている。そういう勉強のさせ方、それは主体的なところを引き出してやろうとして言ってるんですけど、実はそうじゃなくて、任せることで主体的に動けるようになるのではないかなと思っています。できる人ができない人に、主体的にやってもらうための動かし方というのがあると思うので、それは親が子に対する言葉のかけ方ですとか、そうだと思うので。例えば、うちはゴミ集めを子供たちがやっているんですけど、「はい、ちゃっちゃとゴミ集めて！」っていうのか「もうすぐゴミ収集車来ちゃうよ！」って声をかけるかで、自分で考えて自分で動かなければいけないと気付くか気付かないかで、主体的な在り方というのが変わってくるかなと。

自分が主体的に動くことって、基本的には自分がやりたいと思ったことをやっていくんだと思うんですが、動かない人に対しては、任せるということ。結果はこういう風になってしまうよと気付かせることで、自分で主体的に動けるようにさせるということを考えて、なるべく任せるようにしています。

川中子　今、Ｅさんが言ってくれたことは、学校の教育の中でとっても大事なポイントで、特に小さい子の場合、いろいろ教えてやってあげたり、こうやってやるんだよと手取足取り教えてあげるという。日本の明治以来からの教育そのものが、先生が生徒に一方的に、上から下に向かって、教える、教授する、という流れだったのですが、今はその流れがものすごく変わってきていまして、先生はもう教える役じゃなくなってきたと言われているんです。子供が自分で何を学びたいのかということを自分で決めて、そして自分で調べたり対話したりしながら学びを深めていって、もし困ったことがあったら、先生にアドバイスをもらう。そんなような感じに教育全体を変えていこうと。「教える」ということの主体は先生ですよね。「教える」のは、先生の役割で、子供は「教わる」方。受ける方。それが、今度は子供が主体になると言う風に教育を変えていこうとしているんですよ。子供が主人公になってくる。子供は教わるんではなく、自分で学ぶというスタイルです。その時に、必要なことがあれば先生から聞く。「先生から聞く」は、本を読んだりインターネットを調べたりする、一つ手段。学校の先生の役割というのも、まったく違ったものになってくるのかな。今Ｅさんのお話に出てきた、「やらせてみる」というのが、もっとも基本になってくる。一番大事なところ。やらせてみるまでは、子供たちは自分からやれるようにはならない、というのがあるかなと。学校によっては、怖がらないで、子供にやらせちゃおうというところもあります。例えば、包丁を使うのは危ないっていうのがありますよね。危ない、危険であるということや、使い方については確認した上で、やらせてみるかどうか。これは危ないからやらせないでおく、というのと、子供の育ち方が変わってくるのではないかと。

いろんなことを考えていくと、主体性を育てるというのは難しいのかなと。特にこの日本の中で主体性を発揮する子を育てていくのは難しいかなと。今、マスクの話なんかもありますが、本当に難しいなと思います。

「しあわせはいつもじぶんのこころがきめる」

私も、主体性をどうやって伸ばしていけるかなと、本など読んで考えているんですが。では、ちょっとこれを見てください。これは、相田みつをさんという方が書いたとっても有名な作品の一つなんですが、「しあわせはいつもじぶんのこころがきめる」これは４月の暗唱課題にもしたんですけど。子供たちは簡単に覚えて、誰でも言えるようになります。ですが、これは、実はどういう意味か。これがどういう意味か、実は私にとって大きな気づきになったということをお話ししたいのですが。これは、どういう意味の言葉だと、皆さん、思われますかね。

Ｄさん　環境というか…。自分が幸せだと思えば、幸せだと。

川中子　自分が幸せだと思えば幸せ。

Ｂさん　イライラしたときに、例えば、おいしいもの食べたとき「ああ、幸せ！」という瞬間？

Ａさん　うちにもこれ飾ってあって。うちの子がこれを見て、「そうだよ、そうだよ！」って言ってるんです。

川中子　私、あるとき、９０いくつの方が新聞の投書にこのことについて書かれていたのを見たことがあるんですが。

９０何年生きてきて、いろんな経験をしてきた。いろんな経験をしてきたんだけれども、いいことばかりじゃなか

った。つらいことも悲しいこともいっぱいあった。だけど、それをどう自分が捉えるか。その経験をどう捉えるかで、今になってみればああいう経験も大事だったんだな、と。幸せは、それをどう捉えるかという、ものの捉え方によって変わってくるんだなあと。同じことが起こったとしても、いやなこと、ネガティブなことだと思うか、これは何か役に立つ、ポジティブなものと捉えるかによって幸せは変わってくるのかな、と書かれていました。おそらく、世の中のほとんどの人がそういう理解をしているんじゃないかなと。つまり、人生は、ものの考え方、捉え方で変わる、と。

実は、この言葉の中の、「きめる」というのがどういう意味かっていうことで、この言葉の意味するところが違いが出てきてしまうので、これはまたちょっと後で考えてみたいと思います。

「主体性」の定義　①「主体性」と「自主性」の違い

主体性について、私たちがどういう風に捉えたらいいかと言うことで、ちょっと確認します。まず、「主体性」という言葉と似た言葉に「自主性」という言葉がありますが、この二つの言葉の違いは何でしょう。

Dさん　同じだと思います。(笑)

Bさん　「自主的に参加する」と言いますが、「主体的に参加する」とは言いませんね。主体的には、自分がメインで何かする、と言う意味？

川中子　ちょっと違いますよね。

Eさん　関わる？　「自主的」は行動ですが、「主体的」は…。巻き込んでいく？

川中子　例えば、こんな定義があるんですが。「主体性」は「何をすべきかも含めて自分で考えて、意思決定して、実行する。」それに対して、「自主性」のほうは「ある対象に対してやるべきことを判断して、積極的に行動する。」例えば、掃除の時間に一生懸命掃除しようとがんばっている子は自主的に掃除をがんばっている。だけど、さて、帰ろうかなというときに、机が乱れているのを見て、「あ、ここ乱れているな。あしたみんなが来たときに気持ちが良くないかもしれないから、直して帰ろう。」と言って直して帰る子は、主体的に教室環境を整えようと考えてやったことなのではないでしょうか。何か、限られた範囲の中で、一生懸命にやろうというのは自主的な行動ですけど、主体性の方は、やりなさいと言われてないことでも、考えて、必要だと思えばやる。確かにそうだなと。でも、自主的に動けるようになるのも大事なんですが、それよりも主体性の方がもう一段上なのかなと。

さっきの仕事の話で考えていただければわかりやすいかと思いますが、「主体性のない部下」といったとき、おそらく、昭和の時代の会社では、主体性のない人がいても大丈夫だったのではないかと思います。(ここで、お一人参加者が増える。)

Dさん　この前、高校の保護者会に行ったら、マイナビの方が「何をすべきか主体的に考え」「自ら考え、行動すること」と話していました。全く一緒だなと！

川中子　どうぞおかけください。お子さんの学年とお名前をよろしいですか。

Fさん　１年生のFです。

川中子　よろしくお願いします。今、少し話が進んでいるんですが、主体的に生きるとか主体性について、話をしているところです。

会社で、上の人が社員に主体的に動いてもらわないと困るんだよな、という話があります。昔の、昭和の会社だったら、おそらくトップの人たちが考えて、それに向かって、社員は言われたとおりのことをやっていきさえすれば、会社は成長していくという時代があって。高度経済成長の時ですね。今の世の中はそういう状態ではなくなってしまっていますので、もくもくといわれたことをやっていればいいというのでは、その会社はやっていけなくなってしまうと言われています。そこに、今ＡＩという、コンピュータが発達してきて、ロボットがいろんなことをどんどんやってくれるようになってきています。考える必要がない、誰でもできるような作業、仕事というのは、もう人の手はいらないという時代がやって来ているのではないか。そうなってくると、機械の方が人間よりもよっぽど上手に、ミスなく正確に、疲れ知らずに作業をこなしてくれます。今まではそういう労働力も必要だったのだけれども、これからはそういう労働力は必要ないということになってしまうと、人間としてこれからどうやって仕事をやっていったらいいんだろう。これからは、ただ人に言われたことをやっているだけではダメなんだ、と。これからの世の中は、私たちが生きてきた時代よりも、多分もっと厳しくなるんではないでしょうかね。お子さんたちが大人になったころには、本当に主体的に生きていけないと、何というか、取り残されてしまう可能性があるわけです。格差がもっと大きくなってしまう。そうすると、今、子供たちに主体性を身に付けさせるというのはとっても大事なことなんじゃないかなと思います。

②『７つの習慣』にみる「主体性の定義」

今、私がここで話している「主体性」というのは、実はこの『７つの習慣』という本の中で語られている考え方で、英語では"Be proactive."と書かれています。このプロアクティブと言う言葉が「主体的な」という意味で訳されているんですが、実はこのプロアクティブを辞書で調べると「先取りする、先を読んで行動する」という意味なんで、「主体的」「主体性」とは関係ないみたいに見えるんですが、なぜそう訳しているのかと。

このプロアクティブ、という言葉は「アクティブ」と言う言葉と関係があるんです。(この後、少し英語の説明。資料参照)

この『７つの習慣』という本の中で、このコヴィ博士という方が、それまでのアメリカの建国から現在までに、成功を収めた、何かをやり遂げた人たちはどういう人だったのかを調べ上げたところ、それらの人たちには共通の行動様式があることが分かった。それを整理したのが、その７つの習慣になるわけです。その中の第１の習慣が「主体的である」というものです。だから、「主体的である」というのは、人として豊かな人生を送る上でとっても大事なことだということがこの本の中に書かれています。その本の中の「主体性の定義」ということについてはお配りしたものの中に写してありますのでみてみていただきたいのですが。(資料参照)

この話の前に、本の中では「反応的な態度」ということについて説明があるんです。何か刺激に対して、勝手に反応してしまう。例えば、皆さんの目の前に梅干しを出すと、勝手につばがたまる。そのように、刺激に対してすぐに反応してしまうことを「反応的な態度」と言って説明しています。それは、「主体的な態度」の逆の態度になるわけです。「主体的である」というのは、自分で選択して、責任を持つという意味だと。(資料をみながら説明)

さっき、Cさんのお話の中に、勝手に何かをやってしまうというのがありましたが、行動する責任をどう取るかというところまで含めてどう行動するかが「主体性」になると考えると、これは非常に難しいことかなと思います。

ただ、どういう風に生きるか。反応的に生きるか、主体的に生きるかというのは、その人の人生を大きく左右するのではないかと書かれています。こういう考え方を、子供のうちに身に付けることができたら、おそらく大人になったときに大きな違いが出るのではないかなと。小学校でやっていることは、とっても大事なことじゃないかなと。子供が単に先生に言われたことを真面目にやっているだけじゃなくて、自分から課題を見つけて学んでいく、自分で課題を解決するというのが大事な資質能力なんじゃないかなと考えています。

主体性を身に付ける方法

この本の中では､主体性をどう身に付けていくかと言うことも書いてあります。まず「反応する前に一時停止する」と。まあ、これは、子供たちがトラブルを起こすと、先生は必ず言うことでもあります。誰かに何かやられたらやり返すのではなく、ちょっと待って、先生に言うとか別の方法を考える、と。それから、普段から「主体的な言葉を使う」と。自分の態度、というか。反応的な言葉はだいたいネガティブな言葉が多いかな、主体的なことばはポジティブな言葉が多いかなと。(資料参照)

今年、子供たちに主体的な態度を身に付けさせたい。さっきEさんが言われたように、「やらせてみる」というのが非常に大事なことで、何でも先生が最初に決めて、教えてやらせるのではなく、時には、子供を信じてやらせてみる。例えば、係の活動だとか委員会の活動、クラブ活動なんかで、活動としてやらせることもできるのじゃないかと。クラブ活動なんかは、子供たちが立ち上げから自分たちで関わって、こういうクラブが作りたい、そのために人数はこれだけ必要だといって計画を立てさせる。そしてできたら、先生が今日は何をするかを決めるのではなく、子供たちの中のリーダーが相談して決めるとか。そういうことはこれまでもやっています。そういうことをどんどんやらせていかないと、子供たちの主体性は育たないんじゃないかな。

よく、小学校の先生は、幼稚園や保育園の先生がどうやっているか見て学びなさいと言われるんですが、子供たちは遊びの中で主体性を発揮して、自分たちでどんどん楽しい遊びを作っていきます。遊びというのも、主体性を育む上でとっても大事なものですね。それなのに、最近は、コロナなどでそういう遊びや様々な活動が制限されている中で、子供たちの主体性を育てる芽が摘み取られてしまったのではないかなと心配している。そういう中で、今年は子供たちの主体性を育てていきましょう、というのを、意識して取り組んでいこうというのを今年度の重点取組にしました。

おそらく、子供が主体的に生きていってくれるというのは、親にとってもうれしいことじゃないかなと思います。いつも、誰かに言われたことしかできなくて閉じこもっているようではなく、自分でいろんなことに挑戦して、夢を叶えていくという、そんな子供に育ってくれたらと願います。

主体性とは「選択」である

さっきの、この「しあわせはいつもじぶんのこころがきめる」何ですが。自分が経験していることをどう捉えるかで幸せかどうかが決まるというさっきの９０歳のおばあちゃんが書いた投書の紹介をしましたが、そういう風にとらえることもできる言葉ですが、この「きめる」という言葉が、「選択する」「選ぶ」という意味の「決める」だったら、この言葉はまったくちがうものになるという感じがしませんか？　幸せは、いつも自分の心が「選択する」ものなんだ、と。何か、起こったことをいいことだ悪いことだ、どう判断するかという意味の「決める」じゃなくて､幸せと不幸せがあって､どっちを取るのかを自分が選択するんだよ、と思ったら、この言葉はすごく違う言葉になりませんか？　幸せというモノがある。不幸せというモノがある。どっちを選ぶかは、自分が決めるのだ、と。この言葉は、主体的である、ということがどういうことかというのと関係があるのではないでしょうか。何か、起こったことをどう捉えるかではなく、どっちを選んでいくのか。そう考えていくと、人生ってすべて選択なんじゃないか、と。例えば、今日みなさんこうやって参加してくださっていますが、「ああ、学校からこういうメールが届いた。校長が何か話すと。行こうか、行くまいか。土曜日に朝だから、今日は本当はゆっくり寝ていたい時間でもあるけれど。行こうか行くまいか？」という選択ですよね。行こう、と決めてくる。行くのはやめようときめて、来ない。来る、来ないというのは選択なので、どっちがいいとか悪いと言うことではない。その、選択を、どっちを選んでいくかによって、自分の人生ってまったく違ったものになっていってしまうのではないか。そう考えてみると、世の中、ハッピーな人とハッピーじゃない人がいるじゃないですか。よく見てみてると、幸せな人は幸せなことを選んでいる気がしませんか？　不幸せな人は、不幸せな方を選んじゃってる気がしませんか？　子供たちには、ぜひ、幸せの方を選べる人になっていってほしいし、そのためには、やはり「自ら学び、考え、行動する人」になってほしい。行動するためには、責任感も含めて、自信をもっ

て、勇気をもってやっていかなければならないから、それを支えるために「学び、考える」ことが必要なんじゃないかなと思います。

自分は主体的に生きているだろうか？

皆さんは、自分自身はどっちだろう、と考えたとき、どうでしょう？　主体的であろうとしているでしょうか？　まあ、おそらく、今日こちらに参加していただいた方は、主体的な方じゃないかなと思います。いろんな可能性があったんですが、今日、ここへ来ることを選択した方なのですから、おそらく、かなり主体性のある方なんじゃないかなと思うんですが！　（笑）Ｆさん、今日は参加していただいてありがとうございます。Ｆさんは、どうして今日行ってみようかなと思われましたか？

Ｆさん　行きたいという気持ちだったんですが、アンケートで回答する前に、用事ができそうかな、ちょっと待とうかなと思っていたら、アンケートの回答期限が過ぎてしまっていて！（笑）今日、ちょっと時間が空いたから、おくれたけど行っちゃおうかなと思って近くまで来たら、皆さん楽しそうに話されていたので。あまり、主体的じゃなくてすみません。

川中子　いえいえ！　ありがとうございます。あの…。みなさん、結構何かやってるから行ってみようかなと思ってくださっている方は､けっこういるようなんですが。このテーマなら行ってみようかな、と選んで来てくださってるのかなと思うのですが、今日の「主体性」なんていうのはあまりおもしろくなさそうだなと（笑）。でも、学校で。子供たちが行っている学校が何をやっているところなのか、行ってみないと分かりませんよね。だからみなさんに見ていただきたいと思っているんですが、ここ数年あまり見ることもできなかったので。来ていただいて、見ていただいて、学校がどういう教育を目指しているのかなんていうのも知ってもらって、というのは、私にとってはとっても大事な仕事で、こういう機会は本当にありがたいなと思っています。今年も、もっと前にもやりたかったんですが、なかなか土曜日のたびに用事が入っていてできなかったんですが。今日、こういう形で第１回目ができたので､これに懲りずにまた来ていただけたらなと思います。また、テーマなんかも今年は皆さんに聞いてみようかな、募集しようかと思っています。実は５月はマスク論争についてやろうかなと準備していたんですよ。墨田区に保健所に連絡して、保健所長さんに来ていただいてマスクは外してもいいのかダメなのか、話してもらおうかなと思ったら、都合が付かないと断られてしまって。（笑）その代わり、「私としては、国や都が（マスクをしろと）言っている間は、外してもいいですとは言えないです。ただ、熱中症のこともありますから、屋外では積極的に外すというのは考えていっていいのでは」というコメントはいただきました。その後、世の中全体でそういう話が出てきていて。いろいろ、自分で考えて行動していくっていうのは、大事になっていくかなと。

はい、それでは今日は本当にありがとうございました。何か、あまり、いい話にはならなかったかなと…思うんですが。

Ｄさん　いや、いろんな保護者の方に聞いてほしい話だと思いました！

川中子　ありがとうございます！　それでは、今日の記録はＤさんの言葉で締めくくらせていただきます！（笑）ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。